

## 日本気象学会2000年度秋季大会の告示

1. 期日：2000年10月18日（水）～20日（金）
2. 会場：京都テルサ（京都市南区東九条下殿田町70（新町通九条下ル）京都府民総合交流プラザ内）
3. 研究発表

口頭またはポスターによる。口頭発表は4会場に分かれて行う。ポスター発表は「ポスター・セッションの方法」（下記）による。

講演申込方法については「講演申込要領」（下記）参照。

### 4. シンポジウム

大会第2日（10月19日）に開催予定。テーマは「人工衛星からの大気観測 ―その歴史的展開―」。

### 5. 大会参加費、懇親会費

郵便振込による前納または当日受付による。大会当

日は受付が混雑しますので、極力前納するようお願いいたします。

金額は以下の通り。

#### 大会参加費：

	一般会員	学生会員	会員外
前納	2,000円	1,000円	-----
当日払	3,000円	2,000円	3,000円

#### 懇親会費：

	一般会員	学生会員	会員外
前納	4,500円	3,500円	-----
当日払	5,500円	4,500円	5,500円

なお懇親会は大会第2日（10月19日）夕刻に開催予定。

## 講演申込要領

### 1. 発表の種類

- (1) 講演方法には、口頭発表とポスター発表の2種類がある。
- (2) このうち口頭発表は、全て同一の講演時間とする。1件あたりの講演時間は、口頭発表に使用可能な時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定する。決定した講演時間は大会プログラムに記載する。

### 2. 発表件数の制限

口頭発表・ポスター発表を合わせて、1講演者について異なるテーマのもの2件以内とする。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に処置する。

なお、スペシャル・セッションについては上の件数には含めない。

### 3. ポスター発表から口頭発表への振り替えについて

会場の広さやポスターパネル数の制約により、掲示可能なポスター数には上限がある（今大会については一度に76件のポスターが掲示可能）。このため、この上限を超える数の申込があった場合には、ポスターに申込まれたものの一部を口頭発表に振り替える。このために、口頭発表へ変更しても良いかどうかについての選択欄を申込用紙に設ける。「変更可」とあるものから

ランダムに口頭発表に振り替え、それでもあふれる場合は、それ以外のものからもランダムに振り替えを行う。

### 4. スペシャル・セッションの扱い

スペシャル・セッションに申し込まれた発表については、世話人が予稿を審査し、スペシャル・セッションでの発表を認めるかどうかを判断する。発表方法は口頭発表に準ずるが、世話人の判断により、講演持ち時間について若干の変更があり得る。

スペシャル・セッションに申し込まれた発表が、世話人によってスペシャル・セッションに適さないと判断された場合には、一般の口頭またはポスター発表に回す。この場合には上記2の件数制限が適用される。

従って、スペシャル・セッションに申し込みをする場合には、一般の口頭またはポスター発表へ回された場合の発表方法の選択を（この結果、上記2の件数制限に抵触する場合には、発表の優先順位も）、申込用紙の欄外に記入しなければならない。

### 5. 申込方法

- (1) 本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて講演企画委員会に送付する。

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1  
気象研究所予報研究部内  
講演企画委員会（永戸久喜）

スペシャル・セッションに申し込む場合は、上記に加えて、下記宛先へ申込用紙と予稿集原稿のコピーを送付する。

①熱帯降雨観測衛星 (TRMM) データを用いた最近の研究成果 (略称: TRMM)

〒106-0032 東京都港区六本木1-9-9  
六本木ファーストビル  
宇宙開発事業団  
沖 理子

②領域気候モデルの現状と展望 (略称: 領域気候モデル)

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1  
気象研究所環境・応用気象研究部  
佐藤康雄

(2) 申込期限: 2000年8月14日(月) 必着。ただしスペシャル・セッションは2000年8月7日(月) 必着。

6. その他

- (1) 今回は会場の都合によりスライドは使用できません。申し込みの際はご注意ください。
- (2) セッションを的確に編成するために、申込用紙に

キーワードの記入をお願いします。

- (3) 講演者索引を作成するため、申込用紙には講演者の姓名とそのローマ字表記を明記して下さい。
- (4) 最近、講演申込用紙に書かれたタイトルや著者名が予稿集原稿に書かれたものと異なる申込が多く、講演予稿集編集作業に支障をきたしています。講演申込用紙記入の際には上記の点に十分にご注意下さい。
- (5) 申込まれた予稿の内容が、(ア)気象学とは全く無関係である、(イ)極めて非合理的・非論理的である、(ウ)他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることが適当でないと言演企画委員会が判断した場合には、講演を認めないことがあります。
- (6) 大会のプログラムは「天気」9月号及び日本気象学会のホームページ (<http://www.soc.nacsis.ac.jp/msj/>) に掲載されます。ホームページの掲載は締切から約2週間後までに行われる予定ですので、講演申込者は申込みが受理されているかどうかなどの確認に利用して下さい。

## ポスター・セッションの方法

1. ポスター・セッションは大会第1日(10月18日)夕方に行う予定であるが、講演件数が多ければ他の日時にも行う。全体の時間は約1時間で、この間は口頭発表は休憩とする。
2. 各講演者は、指定された会場で概要紹介を行った後、ポスターの前で説明を行う。
3. ポスター発表の概要紹介の持ち時間は1分で、OHPを1枚程度用いることができる。
4. ポスターの掲示場所は当日指定する。ポスターの

掲示・撤去は、講演者自身が行う。掲示にあたってはピンのみが使用できる(長めのピンを推奨)。必要なピンは各自が用意すること。

5. ポスターには講演題目・講演者名を明記しておく。
6. 掲示板は1件あたり幅0.9m、高さ2.4m程度である。なおポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べても良い。

## スペシャル・セッションのご案内

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

ただし、プログラム編成の際に世話人の意向を取り入れるため、申込期限が一般講演よりも早くなるとともに、予稿と申込用紙のコピーをスペシャル・セッション

の世話人にも送付していただくこととなりますので、ご注意願います(申込締切および送付先は「講演申込要領」参照)。

本大会では以下の2件のスペシャル・セッションが行われます。

## ①熱帯降雨観測衛星 (TRMM) データを用いた最近の研究成果

### 趣旨:

一昨年の秋季大会では、TRMM データを用いた初期の研究成果についてスペシャルセッションを開催し、16件の発表が行われた。その後2年が経過し、TRMM のデータも順調に蓄積され、新たにさまざまな研究成果が出てきている。そこで、今回は、これらの研究成果を広く学会員にお知らせするとともに、今後 TRMM のデータをより広い分野の多くの方々に利用してもらうことを目的にスペシャルセッションを開催したい。

**世話人:** 中澤哲夫 (気象研究所), 沖 理子 (宇宙開発事業団)

## ②領域気候モデルの現状と展望

### 趣旨:

相対的に粗い分解能 (水平数100 km 程度) の全球気候モデルの結果や、客観解析値を側面境界・初期条件として、関心のある地域・期間により高分解能の領域気候モデルをネスティングし (埋め込んで) 地域 (局地) 気候を力学的・物理的手法で求める領域気候モデルの研究は、Dickinson *et al.* (1989), Giorgi and

Bates (1989), Giorgi (1990) 等、当時米国 NCAR の研究者、日本では当時気象研究所の Kida *et al.* (1991) の先駆的研究以来、ほぼ10年が経過している。欧州や米国では領域気候モデルの相互比較実験が既に行われており、アジアでも開始されようとしている。客観解析値を側面境界条件として、高分解能の現在気候を求めることについては、一定の性能を達成していると考えられる。しかし、地球温暖化に伴う地域気候変化予測への応用については、まだ問題の緒についたばかりという所であろう。一方で、領域気候モデルの応用対象は拡大し、全球モデルによる季節予報結果に領域気候モデルをネスティングしようという動きも始まっている。また、他方では、全球非静力高分解能気候モデルを構築しようという動きもある。

現時点で、領域気候モデル研究者、あるいは、それに関心のある研究者が一堂に会し、その基礎と応用について、あるいは、現状と展望について、議論を深めるのは非常に有意義なことであると考え、本スペシャル・セッションを提案する。

**世話人:** 佐藤康雄 (気象研究所), 加藤央之 (電力中央研究所), 江守正多 (国立環境研究所), 木田秀次 (京都大学大学院理学研究科)

## 講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は、以下の要領で予稿集原稿を作成し、本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数: 1 件 1 枚
2. 用紙: A4判の白紙を使用する。その他の規格の用紙を使用しないこと。
3. 記入方法: A4用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けする。原稿はダイレクト製版される。
4. 図および表: 写真や図表には折り目が入らないようにする。階調のある写真や図は、階調度が落ちる場合がある。
5. インク: ワードプロセッサ、手書きの場合とも、墨または濃い黒色インクを使う。黒以外の色のインクや鉛筆を使用しないこと。
6. 配置 (付図参照): 記載範囲は縦250 mm×横175 mm 以内とし、上部には20 mm の余白をとる。最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につける。著者が複数の場合には講演者の

左肩に\*をつける。標題から本文までの間隔は20~25 mm とする。本文はなるべく2段組 (左半分→右半分) にする。

7. 著作権: 予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。
8. 送付: 予稿集原稿を細かくおりたたまないこと (2つ折りは可)。送付先・送付期限は「講演申込要領」(391ページ) 参照。

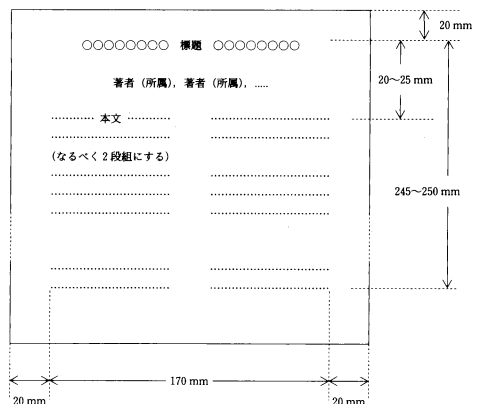


図: A4判用紙による予稿原稿の作成要領

## 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。具体的には、大会プログラムへの掲載、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会へ申し込んで下さい。

**申込先・申込期限：**大会講演と同じ

- 記入事項：**
1. 会の名称とテーマ
  2. 代表者の連絡先
  3. 希望日時・開催場所
  4. 予想参加人数
  5. 希望する支援内容

## 非会員の大会講演について

気象学会の定款では“会員は、次の特典を有する。(中略)2. この法人の催す各種の学術的会合に参加すること。”(第8条)となっており、その中には当然、大会における講演も含まれます。その一方、細則では“講演企画委員会または大会委員会が承認した場合は、会員でない者も、学術的会合において講演を行うことができる”(第12条)と規定されています。

講演企画委員会では、ここ数年間、実態を調査しつつ、会員各位のご意見を参考にしながら、非会員の講演について“承認”の具体的な規定についての検討を行ってきました。その結果、下記のような結論に至りましたので、ご報告申し上げます。

### 非会員の大会講演に関する講演企画委員会の承認規定

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める。
2. 上記規定を明確にするために、講演申込用紙に講演者の会員番号(非会員は会員である共著者の会員番号)の記入を義務づける。

3. ただし専門分科会に関しては、各コンポーネーターの判断にゆだねる。

### 上記見解に至った経緯

- ・今回最も考慮したのは短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行うケースであるが、現状では上記1の措置で十分に対応できると考える。
- ・非会員にも無条件で発表させるべきである、という意見も寄せられた。そのためには非会員の講演に対して然るべき課金をして会員の特典である「講演する権利」を確保すべきであると考えるが、現況では全くの非会員(共著者にも会員を含まない)の講演は皆無に等しく、そのような措置を行うまでの状況には至っていない。

なお、講演企画委員会としてはこれまでと同様、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう望みます。

2000年5月 講演企画委員会